

私たちの活動や意見を平和委員会の仲間たちに伝えます
私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

土浦平和の会

ニュースNo. 255 2013年 6月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL、FAX 831-9122

<http://heiwatutiura.web.fc2.com/>

2013年度土浦平和の会総会（5月12日）が開かれました。

次の役員が選出されました。代表理事、井上仁志、理事、石井明、大滝誠、岡田安正、斉藤房雄、須藤摂子、古沢明、前川吉、山口雪雄、事務局長、近藤輝男、監査、船津寛、佐藤保

平和の会の 霞が浦の歴史散歩は延期しました。後日、お知らせします。

憲法9条土浦の会講演会（5月26日、土浦市民会館）が、ペンチャール会現地代表、中村哲（医師）の「アフガンからの報告」として行われました。会場に立錐の余地もないほどの1200人が集まり、若い人たちも大勢参加していました。今、アフガンは米軍の無差別攻撃と、干ばつで最悪の状況にあるが、16億円の募金で用水路を作り、飢餓を解決した。平和と安全な地域を作れた。戦争や、軍隊は倫理的に墮落していて肯定すべきものではないと報告されました。

6・2NO NUKES DAYでの共同アピールには「安倍首相が『事故を経験した日本の原発は安全』と言って、輸出をすすめている」という一文があります。土浦から参加した人は、国会議事堂前の行動で原発No!の意思表示をしました。

7月の参議院選挙では、核兵器廃絶、原発廃炉、憲法を守り、生かす、基地も安保もなくす政治の躍進を目指しましょう。

7月6日（土）原水爆禁止平和行進（石岡—亀城公園—荒川沖）

どなたでも参加できます。核兵器廃絶、平和を願って一歩でも一緒に歩きましょう

6月28-29日（金、土）東海第二原発の廃炉を求める 全国交流集会 in 茨城（東海村、ひたちなか市）

「さよなら原発土浦地域連絡会」で参加します。

6月23日（日）茨城県母親大会（守谷高校）

7月30日（火）—8月6日（火）原爆パネル展（ウララ5階、県南生涯学習センター）

8月4日（日）午後1時半～ピースデー、映画「夕凧の街 桜の国」（県南生涯学習センター中講座室）

平和の会ニュース、平和かわら版（PDF版）配信しています

平和の仲間へ伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122

早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスをご連絡ください

私たちの活動や意見を平和委員会の仲間たちに伝えます
 私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

シリーズ私の体験 (3)

私の戦争体験 その2 原爆と終戦後

井上 仁志

国民学校5年の時 広島に原爆が落とされました。8月6日午前8時15分、この時、学校は夏休みでした。しかし、農家では男はみな戦争に取られて働き手がいません。国民学校の高学年は援農ということで農家の田圃や畑の草取りなどを手伝うことになりました。

私たちは早朝8時前から学校に集まっていました。8時から朝礼が始まって訓示のあとラジオ体操を始めました。前屈から後ろに反った時空に稲妻が走りました。その日は雲一つない快晴で、暑い夏の一日が始まろうとしていました。一瞬みんな何事かと動きを止めたと思いましたが、ラジオの音楽が続いているので体操を続けていました。するとまもなく(多分1分余り)ドカンと破裂音がしたあとドドドドと遠雷のような音が続きました。

ラジオ体操が終わってからみんなで「何事だろうか」「近くの発電所で事故でも起こったのか」などと話し合いました。山の向こうから原子雲がもくもくと盛り上がってきました。

そのあと先生の指示でそれぞれ近くの農家へ手伝いに行きました。お昼前手伝いを終えて家へ帰った頃にわか雨が降りだしました。実はこれが原子雲が運んできた放射能雨だったわけですが、爆心地近くで長時間雨に当たった人は高熱を出したり、下痢したりの症状で原爆症になったのです。昼ころになって在郷軍人(年配者や障害で戦争に行かなかった人たちが郷土の守備に当たった)がトラックに分乗して広島に向かいました。広島に新型爆弾が落ちたというニュースも伝わってきました。夕方になってから空から紙片や燃えかすが降ってきたり、百円紙幣を拾ったという噂が流れました。

2, 3日の間に広島で被爆した人が何人か担がれて運ばれてきました。火傷して包帯を巻いている周りに蠅がうるさく飛び回るので昼でも蚊帳を釣って寝ていました。この人たちはほとんどが何日か後に亡くなってしまったようです。負傷しなくてもやがて頭髪が抜けて丸坊主になる人がいました。この人たちもやがて原爆症で亡くなる人がいました。大学生だった従兄弟は生死不明のままの葬式でした。

戦争末期から戦後の食糧事情は配給制度で調味料は不足がちで、砂糖はほとんどありつけなかったようでした。コメは少々の小作料で賄ったようですが、ほとんどお粥の中に芋や菜っ葉がはいったご飯で、麦や雑穀でも空腹を満たすためには我慢して食べました。

終戦の頃、交通機関はほとんど使えない状態だったようで、私の兄は少し離れた町の中学校に入っていましたが、終戦の直後歩いて3日掛かりで帰ってきました。父が帰ってきたのは2年後のことですが、戦死の通知もなかったので、いつ帰るか待ち続ける毎日でした。連絡もなく突然、父が姿を現した時の母の驚いた姿が忘れられません。

この「シリーズ私の体験」欄に、読者の方の体験談をぜひ投稿してください。

5/12 土浦平和の会総会

5/26 憲法9条土浦の会講演会

6/2 6・2 No Nukes day

6/28-29 東海第二原発の廃炉を求める

全国交流集会 in 茨城(東海&ひたちなか)

7/6 原水爆禁止平和行進(石岡-亀城公園-荒川沖)